

各 位

2025 年 6 月 17 日
株式会社 山と溪谷社
<https://www.yamakei.co.jp/>

定番の日本の爬虫類図鑑が刷新。ヨウリンウミヘビなど近年の新規記載種を追加した『山溪ハンディ図鑑 日本のカメ・トカゲ・ヘビ 第3版』刊行

インプレスグループで山岳・自然分野のメディア事業を手がける株式会社山と溪谷社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：二宮宏文）は、『山溪ハンディ図鑑 日本のカメ・トカゲ・ヘビ 第3版』（写真=松橋利光、解説=富田京一）を刊行しました。



長年にわたりご好評をいただいている日本の爬虫類図鑑、山溪ハンディ図鑑『日本のカメ・トカゲ・ヘビ』が、最新の分類にあわせて改訂。「第3版」としてバージョンアップし、発刊いたしました。

本改訂版では、日本国内に生息するカメ類 17 種、トカゲ類 49 種、ヘビ類 48 種、全 114 種類を紹介。近年の爬虫類研究の進展に基づき、新たにヤンバルトカゲモドキ、アマミヒメトカゲ、オキナワメトカゲ、ヨウリンウミヘビなど新たに記載された種を加えました。

また、「巨大ハブもリクガメもいた宮古島」「気候の温暖化で海洋生爬虫類の分布が変わる？」「希少野

生動植物種とは？」など爬虫類を取り巻く最新の動向や興味深いトピックに関するコラムを追加しています。

美しく分かりやすい白バック写真に加え、生態写真も多数掲載。また野外で識別が難しい様々な色彩変異も豊富に掲載し、フィールドワークに持っていくにもピッタリなハンディ図鑑です。





幼体 静岡県静岡市

幼体 (アサギジグ) 静岡県静岡市

幼体 静岡県静岡市

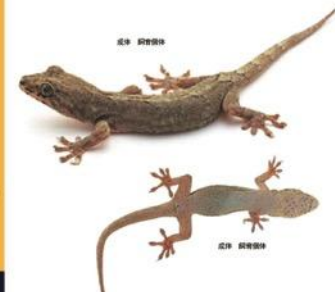
成体 静岡県静岡市

ジググ

Opheophis commersoni

【地理】日本固有種で、北海道・本州・四国・九州のほか、岩手県・伊豆大島・隠岐・五島列島・鹿児島・種子島などに分布する。
【生態】卵生。山でしゃがんで背を高くして尻尾を振り回して獲物を捕らえる。アサギジグほどではないが、尻尾から毒液を出す。
【すみか】主に山地に生息し、耕作地や草地にもみられるが、特に森林に多い。半地下生活とすることが多い。湿度が高く、土壌が腐植質で、腐植質が豊富な場所を好む。
【食性】主にミミズや小型のモグラを食す。特にミミズの幼虫を好むが、地上でも活動した例がある。冬は冬眠し、夏も雨期に食を断つ。
【繁殖】5〜6月に交尾を行い、6〜8月に2〜3卵を産む。約30日で孵化。
【大きさ】全長70〜100cm。
【体の特徴】上唇が黒く、下唇が赤く、腹面には黒い線が入る。頭部は丸く、目は大きく、口は広い。

い、いずれも都市生活への適応である。腹孔は丸く、虹彩は普通は黄褐色。腹面の体色は多くの場合、赤みがかった茶褐色。腹面によっては黒い斑点が見られる。幼体や成体ともに分布する。幼体は背や側面に黒い線が入るが、成長に従って小さくなり、成体ではほとんど消失する。腹面はやや不規則な白黒の斑模様。ただし東日本では背にもよくあり、北海道の個体では濃縮した黒い帯になることが多い。腹中央部の体鱗は21列。体鱗は薄く、腹面には紅色光沢を放つ。腹面にあるが、確認できないほど薄い。ときに腹面でも赤みがかった斑模様もあり、アカジググとも呼ばれる。
【見分け方】同所的に分布し、しかも



成体 静岡県静岡市

成体 静岡県静岡市

オキナワモリ

Gekko sp.

【分布】沖縄県・伊平郡、伊波名島、水納島、鹿野島、久米島に分布する。かつてミナミヤモリの域に含まれていた鹿野島のひとつ。まだ記載ではあるが、近年の分子遺伝学分析によって別種として扱うのが妥当と判断した。特にアサギジグと近縁とされる。鹿野島レッドリストにおける準絶滅危惧種に指定されている。
【すみか】森林内に生息し、樹液やその分泌液を食する。林縁部での目撃例も多いが、人家付近で見つかった例はほとんどない。夏季よりも冬季によく見かける傾向がある。夜行性。
【食性】主に昆虫を食す。
【繁殖】卵生。卵は卵殻膜の厚い卵があるが、卵殻はよく発達していない。
【大きさ】全長10〜14cm。
【体の特徴】腹から胸にかけて黒い斑点を持つ個体が多い。腹面が黄色い色を帯びている個体が多い。背面に赤い



成体 静岡県静岡市

成体 静岡県静岡市

アマミヤモリ

Gekko ventralis

【地理】奄美群島の奄美大島、加計呂麻島、与良島、徳之島、および佐賀県列島の小笠原に分布する。日本固有種。
【すみか】小笠原島の生息数は多く、さまざまな環境で見られるが、奄美大島では生息数やそれに伴った環境に多く、人家近くで目撃されることは少ないようだ。夜行性。
【食性】主に昆虫を食す。
【繁殖】卵生。卵は卵殻膜の厚い卵があるが、卵殻はよく発達していない。ただし、卵殻下においては、卵が卵殻膜に張り付き、人間の手を付けると破裂するなどの行動が観察されている。
【大きさ】全長10〜14cm。
【体の特徴】地味な多くの場合、反色や暗い褐色の体や、黒っぽい斑点が目立つ個体もみられる。
【見分け方】本種は多くのヤモリ類の類にある腹孔を持たない。分布域の





オオカマダラヘビの生息する渓流沿いに出逢うことも多い。鹿児島県奄美大島11月



258



日本のヘビでは最も太短い。沖縄県沖縄島4月



秋田の山に生息する。鹿児島県奄美大島10月



ビツの公園がよくわかる正面像。鹿児島県奄美大島8月

分布マップ ヘビ① 北海道・本州・四国・九州

北海道～九州にかけてのヘビ類は単純に、形態だけでなく、アオダイショウは人に多くて樹上生、ヤマカガシやヒバカリは水辺に多いといった区別もあわせて考えると特定は難しくない。

全域（＝北海道には分布しない）



アオダイショウ
① 170mm
腹は角ばっていて、体は太く長い



シマヘビ
② 176mm
細長く、赤い虹彩が特徴。鱗はないこともある



ジムグリ
③ 190mm
頭部がくねり、つるんとした印象



シロマダラ
④ 194mm
体は細く、白黒の縞模様が特徴。鱗は細長



ヤマカガシ
⑤ 214mm
体色には変異が多いが、鱗にキーンとした印象



ヒバカリ
⑥ 220mm
体は細く、腹側に黒色の点が見える



オオカマダラ
⑦ 232mm
体は黒色を基調とし、腹が小さい



ニホンマムシ
⑧ 236mm
体は太く、鱗の模様がある

北海道

ヤマカガシ、ヒバカリ、オオカマダラは分布しない。シロマダラは秋田の山に生息する。秋田での分布が確認されている。



本州・四国・九州

基本的にアオダイショウ、シマヘビ、ジムグリ、シロマダラ、ヤマカガシ、ヒバカリ、オオカマダラは全国的に分布する。オオカマダラは特定の分布パターンをみせる。対馬には大島との共通種であるアオマダラが分布する。また、フシマムシの唯一の生息地でもある。

島嶼部

オオカマダラ
⑨ 164mm
ミズのような太さ。腹は皮下に埋められている

オオカマダラ
⑩ 223mm
極めて小柄で、背腹に黒色のまだら



フシマムシ
⑪ 242mm
背中の丸い模様には黒点がない



アオマダラ
⑫ 198mm
赤い斑色に黒の縞模様が特徴

149

1966 年福島県生まれの爬虫類・恐竜研究家。肉食爬虫類研究所代表。女子美術大学・TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 博物館・恐竜自然史専攻・国際動物専門学校講師。八重山諸島のヘビ類調査や自然・恐竜関係の映像作品、各地で開催される恐竜博にも関わる。著書は『恐竜は今も生きている』（ポプラ社）、『そうだったのか！ 初耳恐竜学』『へんな動物といっしょ』（小学館）、『ザ・爬虫類＆両生類』（誠文堂新光社）など多数。

【書誌データ】

書名：山溪ハンディ図鑑 日本のカメ・トカゲ・ヘビ 第3版

写真 松橋利光

解説 富田京一

発売日：2025年6月17日

定価：3300円（本体3000円＋税10%）

280ページ／4C

<https://www.yamakei.co.jp/products/2825070490.html>

【山と溪谷社】 <https://www.yamakei.co.jp/>

1930年創業。月刊誌『山と溪谷』を中心とした山岳・自然科学・アウトドア・ライフスタイル・健康関連の出版事業のほか、ネットメディア・サービスを展開しています。

さらに、登山やアウトドアをテーマに、企業や自治体と共に地域の活性化をめざすソリューション事業にも取り組んでいます。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証スタンダード市場 9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「航空・鉄道」「モバイルサービス」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社山と溪谷社 担当：手塚

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング

TEL03-6744-1900 E-mail: info@yamakei.co.jp

<https://www.yamakei.co.jp/>